

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No362
(新著の紹介)

『古典を学んでよかった！と思える探究型授業のつくりかた
ー「文学」「国語」のためのアクティブラーニングー』
吉野 朋美先生（中央大学文学部教授）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)

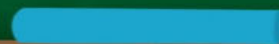
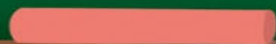


吉野 朋美
よしの ともみ

中央大学文学部・教授

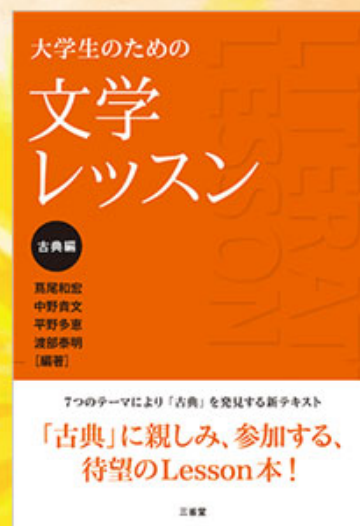
東京大学大学院人文社会系研究科修了。博士（文学）。
東京大学文学部助手・中央大学文学部専任講師・准教授を経て2014年4月より現職。2014年に
Columbia Universityにて在外研究。

単著『後鳥羽院』（コレクション日本歌人選028・
笠間書院・2012年），『後鳥羽院とその時代』（笠
間書院，2015），『西行全歌集』（共著、岩波文
庫・2013年），『中世歌合集』（共著、和歌文学大
系16・明治書院・2024年）など



No141

**占い・おみくじをメディア（媒介）として
古典文学と学生・社会を繋ぐ
—平野多恵先生（成蹊大学文学部教授）**





日本文学アクティブラーニング研究会

（吉野朋美・中野貴文・平野多恵・佐藤至子・小林ふみ子・中嶋真也・兼岡理恵）著

『古典を学んでよかった! と思える探究型授業のつくりかたー「文学」「国語」のためのアクティブラーニングー』（文学通信・2025年3月刊）

全文PDF公開



本書の目次

- はじめに——「文学」「国語」のためのアクティブラーニング（吉野朋美）
- 第1章 歌物語を作って即興演劇で発表してみよう！
——『伊勢物語』の成り立ちを追体験する（中野貴文）
- 第2章 『百人一首』でディベート&和歌占いをしてみよう！
——正解はひとつじゃない（平野多恵）
- 第3章 『徒然草』のパロディを作ってみよう！——古典の論理で現代を捉え直す（佐藤至子）
- 第4章 古くからある発想法〈見立て〉で創作してみよう！
——江戸時代の「見立絵本」の可能性（小林ふみ子）
- 第5章 枕詞を作ってみよう！
——万葉歌人の発想を追体験する（中嶋真也）
- 第6章 歴史の空白を埋める物語を創作してみよう！
——歴史はどう創られる？ 草薙の剣をめぐる言説から探る（兼岡理恵）

目次 続き

- 第7章 すれ違いの寸劇を創作してみよう！
——ディスコミュニケーションと文学の歴史（中嶋真也・佐藤至子・平野多恵）
- 第8章 「推し」妖怪のポスターを作ってみよう！
——オンラインデータベースの活用と情報の見極め方（吉野朋美）
- COLUMN 「ちはやぶる」の二次創作（平野多恵） 「文学の力」（中野貴文）
- 古典文学の普及——出版の力（小林ふみ子）
- どれが「本物の？」ヤマトタケル？（兼岡理恵）
- 学生をグループに分けるには（小林ふみ子） 万葉仮名（中嶋真也）
- 参加者の緊張をほぐすには——アイスブレイク集（中野貴文）
- アクティブラーニングのためのQ&A（平野多恵）
- おわりに（吉野朋美）
- 研究会の活動記録
- 執筆者一覧

それではご覧ください

新著紹介

日本文学アクティブラーニング研究会

(吉野朋美・中野貴文・平野多恵・佐藤至子・小林ふみ子・
中嶋真也・兼岡理恵) 著

『古典を学んでよかった！と
思える探究型授業のつくりかた
「文学」「国語」のためのアクティブラーニング』
(文学通信・2025年3月刊)



本書の目次

- はじめに——「文学」「国語」のためのアクティブラーニング（吉野朋美）
- 第1章 歌物語を作って即興演劇で発表してみよう！
——『伊勢物語』の成り立ちを追体験する（中野貴文）
- 第2章 『百人一首』でディベート&和歌占いをしてみよう！
——正解はひとつじゃない（平野多恵）
- 第3章 『徒然草』のパロディを作ってみよう！——古典の論理で現代を捉え直す（佐藤至子）
- 第4章 古くからある発想法〈見立て〉で創作してみよう！
——江戸時代の「見立絵本」の可能性（小林ふみ子）
- 第5章 枕詞を作ってみよう！
——万葉歌人の発想を追体験する（中嶋真也）
- 第6章 歴史の空白を埋める物語を創作してみよう！
——歴史はどう創られる？ 草薙の剣をめぐる言説から探る（兼岡理恵）

目次 続き

- 第7章 すれ違いの寸劇を創作してみよう！
——ディスコミュニケーションと文学の歴史（中嶋真也・佐藤至子・平野多恵）
- 第8章 「推し」妖怪のポスターを作ってみよう！
——オンラインデータベースの活用と情報の見極め方（吉野朋美）
- COLUMN 「ちはやぶる」の二次創作（平野多恵） 「文学の力」（中野貴文）
- 古典文学の普及——出版の力（小林ふみ子）
- どれが「本物の？」ヤマトタケル？（兼岡理恵）
- 学生をグループに分けるには（小林ふみ子） 万葉仮名（中嶋真也）
- 参加者の緊張をほぐすには——アイスブレイク集（中野貴文）
- アクティブラーニングのためのQ&A（平野多恵）
- おわりに（吉野朋美）
- 研究会の活動記録
- 執筆者一覧

簡単な自己紹介



吉野 朋美
よしの ともみ

- 中央大学文学部教授
- 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学）。
高校・大学の非常勤講師、東京大学文学部助手、中央大学文学部
専任講師・准教授を経て現職。
- 専門分野 日本古典文学
- 研究テーマ
 - ①平安時代後期～鎌倉時代の和歌を中心とする文学作品
 - ②古典文学の探究型授業の教材作成と授業実践

おもな著作

- 『堀河院百首和歌』（共著、和歌文学大系15・明治書院・2002年）
- 『俊頼述懐百首全釈』（共著、風間書房・2004年）
- 『慈円難波百首全釈』（共著、風間書房・2009年）
- 『後鳥羽院』（コレクション日本歌人選028・笠間書院・2012年）
- 『西行全歌集』（共著、岩波文庫・2013年）
- 『後鳥羽院とその時代』（笠間書院・2015年）
- 『中世歌合集』（共著、和歌文学大系16・明治書院・2024年）

〜〜

- 『大学生のための文学トレーニング 古典編』（共著、三省堂・2013年）
- 『まんがで読む万葉集・古今和歌集・新古今和歌集』（監修、学研プラス・2015年）
- 『まんがでわかる日本の古典大事典』（監修、学研プラス・2016年）
- 『漫画方丈記』（時代考証、文響社・2021年）



本書に至る経緯 その1

・日本文学アクティブラーニング研究会（2013年～）での活動

- ・研究会メンバー（＝本書の執筆者 中野貴文〈学習院大学〉・平野多恵〈成蹊大学〉・佐藤至子〈東京大学〉・小林ふみ子〈法政大学〉・中嶋真也〈学習院大学〉・兼岡理恵〈千葉大学〉・吉野）は大学院の同窓生（学年や古典文学の専門分野はまちまち）

- ・大学での授業の工夫について話し合う会を不定期に催していた

- ・大学や高校で古典のおもしろさや奥深さを実感しつつ学ぶ場を作りたい

- ・古典研究や古典の学びとジェネリックスキル養成・キャリア教育をつなげられないか

➡ 2015年から年に一度のペースで、高校・大学・大学院・社会人（高校・大学教員・出版社等勤務など）20～30名程度を対象にした古典文学ワークショップ（WS）をほぼ一日がかりで開催し、WSにもとづく授業実践・教材開発に取り組んできた

<https://nihonbungakual.wixsite.com/koten> 日本文学アクティブラーニング研究会HP

・ AL研究会でのワークショップの枠組み →②～④を本書に生かしている

①アイスブレイク……その回のテーマに関連するものを30分程度おこなう。

その後の内容の導入にもなる。

②レクチャーとそれに関連する活動（ワーク）

……できるだけ新しい研究成果や手法をわかりやすく盛り込んだ、テーマにかかわる
レクチャーを一回20分以下で複数設ける。関連ワークも必ず設けてアウトプット。

※ワークシートの設計が肝

③創作活動と成果発表……レクチャー、および関連するワークで学んだことをふまえ、

※本WSの根幹 参加者が現代の自分たちにひきつけた創作活動をおこなう。

④まとめ・ふりかえり……まとめとしてテーマに関する発展的な内容をレクチャー。

参加者がWSでの学びを今後に生かすためのふりかえりをおこなう。

本書に至る経緯 その2

- 研究会での活動を発展させた文部科学省の科学研究費助成事業（基盤C・2019～2024・19K 00530 代表・吉野）「高大連携による古典文学の探究型授業の教材作成と教育モデル構築の実践的研究」での活動…… WSの拡充
- 2023年7月30日（於 成蹊大学）に開催した「シンポジウム どうする!? 「国語」の探究型学習 高校の探究と大学の研究をつなぐ」（対面45名、オンライン251名の申込）で見えてきた、中高の現場と大学の研究教育との架橋への期待感・渴望感 → 報告書PDF （770を超えるダウンロード数）

<https://bungakureport.com/shoten/nihonbungakual2024/nihonbungakual2024.pdf>

- 研究会・科研の成果報告としての本書の刊行 → 学習者が古典文学の魅力を自ら発見し、新たな価値を創造できるような探究型授業の教材を作することをめざす

本書の特徴 その1 活動・教材の内容から

- 各テーマに関連する最新の研究状況を反映させながら創り上げた、体も頭も使うアクティブラーニング、探究型授業に資する内容

テーマに関するレクチャー（知識のインプット→何らかの発見・興味）

個人活動

個人での読解・考察・論拠探し



グループ活動

自分の意見をもとに他の人の考察・意見を聞き、検討し、読解・考察を深める

➡ 活動をもとに、自分たちの感性を生かして**創作活動（アウトプット）**

この活動の過程ではさまざまな局面で①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析・考察→④口頭発表・文章化がおこなわれる。このプロセスは研究でも同じであり、文科省による高等学校の「探究型学習」でイメージされている過程ともほぼ同じ（④が「まとめ・表現」となっている）

- 古典作品を読解・考察した上での根拠をもった創作活動の意義
 - 古典の学びが現代の創造的活動にもつながること、得た知見が現代の諸問題考察の糸口にもなることが実感できる
- 協同による創作活動の意義
 - 実社会におけるプロジェクト達成のチーム活動の訓練にもなる
 - 汎用的な思考力・コミュニケーション力の涵養につながる
- 各教材の特色 → 日本の古典文学に見える思考や発想、言語のありようや現代の文化に息づいていることを体感できるような題材、研究の基礎となる調査方法を体験できる題材を選んでいるため、教科書に載らない作品も扱う

たとえば…… 第3章 徒然草のパロディを作ってみよう！

- 国語の教科書に必ず載る『徒然草』を題材にした江戸のパロディ『吉原徒然草』を用いて、パロディ創作の技法を学び、「当世徒然草」と題したパロディを創作する教材 *その分野の専門家ならではの紙上講義が展開
- 兼好法師の実像についての最新の研究紹介……いま教科書に載っている略歴（京都の吉田神社の神官吉田氏の一族だった）は室町時代に捏造された経歴であること
- 江戸時代には印刷技術が普及し、『徒然草』をはじめとする古典文学の注釈書が多く出版されたこと、特に『徒然草』はよく読まれ多くの注釈書が出ており、そこからパロディも種々できたこと
- 『吉原徒然草』は吉原の遊郭の世界や同時代のさまざまな事象を題材に、『徒然草』の全章段をパロディにした点が特色の作品。1716年ごろ成立。
→もとの文章の骨格を変えずに古典の世界を当世の俗な世界に転換 細部を対照的・ギャップのあるものに変えることがパロディ作りのコツであることが実感できる活動

第3章 『徒然草』のパロディを作ってみよう！

時代…中世・近世文学

第3章

『徒然草』のパロディを作ってみよう！

——古典の論理で現代を捉え直す



▼ねらい

この單元では『徒然草』とそのパロディ作品である『吉原徒然草』を読み比べ、パロディがどのように作られているかを理解し、それをふまえて『徒然草』のパロディ創作に取り組む。

『徒然草』のパロディ作品は複数あるが、江戸時代に作られた『吉原徒然草』は『徒然草』のすべての章段をたくみにもじっている点で他の作品と一線を画す。グループワークでは、『徒然草』のいくつかの章段とそれそれに対応する『吉原徒然草』の章段とを丹念に比較し、わかったことを互いに伝え合いながら、パロディの技法について理解を深める。

『徒然草』のパロディ創作では、参加者の身の回りにあるものや現代の現象を題材とし、『吉原徒然草』と題して現代版の『徒然草』を作る。テーマの設定、題材の選択、文章の創作を共同で行うことを通じて、コミュニケーション力や創造力、表現力を養う。

パロディを作ることが単に言葉を置き換えてゆく作業ではなく、『徒然草』の論理を借りて現代の現象を捉え直す行為であることを実践的に理解する。

▼授業構成 (90分×2回)

第1回 パロディの技法を知ろう

『徒然草』と『吉原徒然草』を読み比べ、『吉原徒然草』のパロディの技法について理解する。

第2回 『吉原徒然草』を創作しよう

『徒然草』一三七段のパロディ作品『吉原徒然草』を創作する。

▼実施環境

人数

・一六〇人程度 (四、五人で一グループを構成)

パソコン・ネット環境

・パソコン、プロジェクター、スクリーンが用意できる場合は、『吉原徒然草』のプレゼンテーション時に利用する (必須ではない)。

・インターネットへの接続ができる場合は、創作時にオンライン上で共同作業できるスライドを利用する (必須ではない)。

教室

・グループワークに適した可動式の机と椅子のある教室。

▼授業の流れ

第1回 パロディの技法を知ろう

時間 配分	講義・ワークの内容	配付物・準備するもの
5分	1 導入 本単元のねらいと全体の流れ、第1回の流れを説明する。	
10分	2 【講義】江戸時代における『徒然草』の受容 (1) 『正徳本』を紹介する。兼好に関する研究成果を紹介する (2) 江戸時代の『徒然草』注釈書とパロディ作品について紹介する	
15分	3 【講義】『吉原徒然草』の解説 (1) 『吉原徒然草』の概要と作者について説明する (2) 『徒然草』序段と『吉原徒然草』一段を比較し、古典の世界を当世の俗な世界に転換していることを説明する	
50分	4 【徒然草】と『吉原徒然草』の読み比べ (1) 参加者を四つのグループにわける 『徒然草』と『吉原徒然草』の対応する章段を組み合わせた「章段セット」A～Dを用意し、一つのグループに一種類のセットを割り当てる。 資料・章段セットA～D A 『徒然草』五一段（龜山殿の御池に……）・『吉原徒然草』五二段（奥大名の子小姓に……）	1 資料・章段セットA～D 2 ワークシート・比較シート



10分	5 【発表】『吉原徒然草』のパロディの工夫 『吉原徒然草』ではパロディを作る上でどのような工夫がなされているか、各グループの代表者が発表する。	
-----	--	--

▼授業の流れ

第2回 「当世徒然草」を創作しよう

時間配分		課題・ワークの内容		配付物・準備するもの
5分	1 導入	全体の流れを再確認し、第2回の流れを説明する。		
25分	2 『徒然草』一三七段（前半部分）の読解	(1) 「個人ワーク」『徒然草』一三七段（前半部分）を読解し、ワークシートに記入する (2) 「グループワーク」記入した内容を共有し、一三七段（前半部分）の特徴について話し合う	3 ワークシート・読解シート	
50分	3 『当世徒然草』を作る	(1) 「グループワーク」『徒然草』一三七段（前半部分）のパロディ作品「当世徒然草」を創作する (2) 「発表」創作した「当世徒然草」を各グループの代表者が発表し、工夫した点について説明する	4 メモ用シート • 下書き用紙	
5分	4 【課題】パロディの作り方のポイント・パロディを作るとはどういう行為なのか			



5分	5 ふりかえり	パロディの技法についてふりかえる。	
		(1) 各グループの発表にコメントする (2) 『徒然草』一三七段冒頭と『吉原徒然草』下巻一段冒頭を例に、パロディの作り方のポイントについて解説する (3) 『徒然草』のパロディを作ることとは『徒然草』の論理を借りて対象を捉え直すことである、という点について解説する	

▼授業の詳細

1 導入

※第1回の終了時点と同じグループにわかれて着席した状態で授業を開始する。

今日は2回目の授業です。前回の授業では、『徒然草』の章段と『吉原徒然草』の章段とを読み比べて、『吉原徒然草』ではパロディがどのように作られているかを発表してもらいました。今日は、みなさん自身で『徒然草』一三七段（前半部分）のパロディ作品を作ってみましょう。完成した作品は『当世徒然草』として、授業の最後に発表していただきます。

2 『徒然草』一三七段（前半部分）の読解

(1) 『個人ワーク』『徒然草』一三七段（前半部分）を読解し、ワークシートに記入する

※ワークシート…読解シートを配付する。

まずは一三七段の前半部分を読んで、文章の構成を把握しましょう。

花はさかりに、月はくまなきをのみ、見るものは。雨にむかひて月を恋ひ、たれこめて春のゆくへ知らぬも、なほあはれに情けふかし。咲きぬべきほどの梢、散りしをれたる庭などこそ、見どころ多けれ。歌の詞書にも、「花見にまかれりけるに、はやく散り過ぎにければ」とも、「さはる事ありてまからで」なども書けるは、「花を見て」といへるに、劣れる事は。花の散り月の傾くを慕ふ習ひはさる事なれど、ことにかたくなる人ぞ、「この枝かの枝、散りにけり。今は見どころなし」などと言ふめる。

この文章は、五つの文で構成されています。これらを第一文、第二文、第四文、第五文の三つにわけて分析してみましょう。ワークシートに書き込むかたちで、次の三つのワークに取り組んでください。

◆第一文（花はさかりに……）

この文は、

（A）は（a）に、（B）は（b）をのみ、見るものは。

という構成になっている。AとBを例として挙げ、その良さ（見どころ）がaとbだけではないと主張している。この文を、次の文と比較してみよう。

（A）は（a）のほかにも、（B）は（b）のほかにも、見どころあるものなり。

二つの文の印象の違いについて、気づいたことを書いてみよう。

◆第二文（雨にむかひて……）から第四文（歌の詞書にも……）まで

ここでは、具体的な例が六つあげられている。それらにはどのような特徴が見いだせるか、気づいたことを書いてみよう。

◆第五文（花の散り……）

「かたくなる人」のものの見方はどのようなものか、説明してみよう。

まずは、個人で作業してみましょう。時間は10分程度です。

※終了時間を指示する。

(2)「グループワーク」記入した内容を共有し、「一三七段（前半部分）」の特徴について話し合う

できましたか？ では、ワークシートに書き込んだ内容をグループ内でシェアしましょう。一人ずつ、他のメンバーに説明してください。全員が説明し終わったら、この文章の特徴について気づいたことを話し合ってみてください。時間は15分程度です。

※終了時間を指示する。机間をまわり、話し合いの様子を確認する。「一三七段（前半部分）」の文章は、ある対象についての一般的な見方（花は満開の時、月は曇りのない状態を見るのがよい）をあえて否定し（「第一文」、別の見方（見ることもかわらない状態）で月や花を思う、咲きそうな枝や散った後にも見どころがある、和歌の詞書にもそれがわかる例がある）を指摘し（「第二文」「第四文」）、「かたくなる人」（風流を解さない人）は一般的な見方にとらわれてその他の見どころに気づけないことを示す方を示す（「第五文」という構成になっている。これらについて、理解できているかどうか注意する。

3 「当世徒然草」を作る

(1)「グループワーク」「徒然草」一三七段（前半部分）のパロディ作品「当世徒然草」を創作する

パロディの創作にとりかきましょう。作業時間は、約40分です。○時○分までに作品を完成させてください。※終了時間を指示する。④メモ用シートを配付する。

まずは各自でアイデアを書き出してみましょう。メモ用シートを見てください。「徒然草」一三七段の前半は「花」「月」がテーマです。みなさんは何をテーマにしますか？ 題材は、自分の身の回りにあるもの、現代のさまざまな現象、流行などから選んでください。思いついたテーマをどんどん書いてみましょう。そのテーマについて、「かたくなる」人だったら、どんなものの見方をするでしょうか？ これも思いついたことをどんどん

書いてみましょう。ひとまず5分間、一人で考えて書いてください。

※5分たったところで声をかける。

書けましたか？ では、テーマのアイデアをグループ内でシェアしましょう。また、それぞれのテーマについて「かたくなる人」ならどのような見方をするか、話し合ってみてください。全員がアイデアについて話し終えたら、テーマを絞って、「一三七段」のパロディの文章を書いてみましょう。文章の下書き用の紙を配付します。発表の際は、完成した文章を朗読した後、工夫した点について説明していただきます。○時○分から発表を始めます。

※下書き用紙（A4判の白紙など）を配る。机間をまわって進み具合を確認する。終了5分前になったら、「あと5分、文章を完成させてください」などの声をかける。下書き用紙ではなくオンライン上で共同作業のできるスライドを用いる場合は、グループ別に書き込みができるスライドをあらかじめオンライン上に用意しておく。

(2)「発表」創作した「当世徒然草」を各グループの代表者が発表し、工夫した点について説明する

それでは、発表の時間です。グループごとに、完成した「当世徒然草」を発表してください。まず、作成した文章を朗読し、次に、工夫した点について説明してください。

※パソコン、プロジェクター、スクリーンを用意できる場合は、各グループが作成した文章をスクリーンに映しながら朗読してもらう。

ワークショップ参加者の作例

文学はベストセラーを、音楽は紅白出場アーティストをのび見るべきだろうか。

雨に向かって路上で歌っているのも、部屋に閉じこもって書かれたWEB小説も、それぞれに魅力があるのだ。ブックオフで一〇〇円で売られている知らない作家の文庫本にも、武道館に届かず行き詰まっているバンドの曲にも、見どころはあるはずだ。Amazonレビューに感想が全く寄せられない本も、YouTubeのコメント欄に「解散する前に知りたかった…」とある曲も、「感動した!!!」と書かれている作品に劣ることあるのだろうか。

人気があるものが魅力的なのはもちろんそうであるが、ことに頑なな人は「マイナーなのはクソだ」としか言えないのである。

4 【誤差】パロディの作り方のポイント・パロディを作るとはどういう行為なのか

(1) 各グループの発表にコメントする

※すべてのグループの発表が終わってから、各グループの作品について適宜コメントする。

(2) 『徒然草』一三七段冒頭と『吉原徒然草』下巻一段冒頭を例に、パロディの作り方のポイントについて解説する

実際にパロディを作ってみて、どうでしたか。パロディの創作のこつがわかってきたでしょうか。ここで、ポイントとなる点を確認しておきます。

パロディを作るときのポイントは、①もとの文章の骨格を維持すること、②細部を対照的なもの、ギャップのあるものに変えること、の二点です。例として、『徒然草』一三七段の冒頭と、これに対応する『吉原徒然草』下巻一段の冒頭とを比べてみましょう。

『徒然草』一三七段冒頭

花はさかりに、月はくまなきをのみ、見るものは。

『吉原徒然草』下巻一段冒頭

女郎はとしまに、若衆は兄分なきをのみ、いふものは。

比べると、「……は……に、……は……なきをのみ、……ものは」という文の骨格が維持されていることがわかります。

一方で、「……」の部分に入るものは大きく変えられています。『徒然草』の方は、「花」と「月」という自然の風物について述べた文章ですが、『吉原徒然草』の方は、「女郎」と「若衆」と「兄分」と「兄分」という男性同士の関係における少年と年長者という、世俗的な題材について述べた内容になっています。骨格が維持されているからこそ、こうした細部の変更、表現の違いが際立ち、おもしろさが生まれるのです。

(3) 『徒然草』のパロディを作るとは『徒然草』の論理を借りて対象を捉え直すことである、という点について解説する

では、パロディを作ること、私たちは何を知ることができるのでしょうか。『徒然草』のパロディを作ることには、単に、もとの文章の言葉を別の言葉に置き換えてゆく行為ではありません。みなさんは創作を通じて、身の回りにあるさまざまなものに目を向け、「かたくななる人」だったらどのようにそれを捉えるか、ということを考えていると思います。それは、言いかえれば、もとの『徒然草』の文章が持っている論理をたどり、その論理の枠組みを借りて、自分たちの考えや認識を表現する、ということなのです。

このように、古典のパロディを作ることは、新たなものの見方に気づいたり、世界の捉え方が変わったたりするきっかけを私たちにもたらしてくれます。これもまた、古典の学び方の一つであると言えるでしょう。

5 ふりかえり

ここまでをふりかえって、どのようなことに気づいたか、ペアで話し合ってみてください。

※ 2分程度で終了の声をかけをする。

話し合いができましたか。では、全体で共有しましょう。わかったことについて、簡単に述べてください。発言して下さる方は挙手してください。

※ 挙手した参加者に話してもらおう。または、教員が何人かを指名して話してもらおう。

ありがとうございます。実際に作ってみたいことで、パロディの技法がよりよく理解できたかと思えます。他のグループが創作した「当世徒然草」についての感想は、後ほど書いて、提出してください。

※ 提出方法を適宜指示する。

※ 「吉原徒然草」下巻一段の全文を読み、感想をまとめる課題を出してもよい。創作する体験をした後であらためて「吉原徒然草」を読むことにより、この作品の持つおもしろさについて、さらに理解を深めることができる。

▼ 本単元の意義——参加者の声をおして

「徒然草」を取り上げたことについては、「授業で何度か触れたことのある題材で親しみやすかった」（高校生）との感想が寄せられた。教科書などを通じて広く読まれている古典を教材としたことで、取り組みやすい活動になったことがわかる。パロディを創作するというワークに関しては、「自らの頭でこれはどんな作品なんだろう？

これをパロディ化するにはどんな工夫をしたらいいだろう、と考えることによって、作品に対する理解度が深まった」（大学生）との声があり、パロディの材料として作品に向き合うというスタンスが古典への理解を深めるいとおちになることが確かめられた。グループワークについては、「自分では絶対に思いつかなかった発想などに驚かされ、互いに学び合うよさを実感できた」（大学生）との声があった。

▼ もっと知りたい・学びたい人のために

- ・ 木藤才蔵校注『徒然草』（新潮日本古典集成 一九七七年）『徒然草』の本文と注釈。
- ・ 上野洋三校注『吉原徒然草』（岩波文庫 二〇〇三年）『吉原徒然草』の本文と注釈。
- ・ 小川剛生『兼好法師 徒然草に記されなかった真実』（中公新書 二〇一七年）兼好の実像にせまり、『徒然草』を再検討する。
- ・ 中野貴文『徒然草の誕生——中世文学表現史序説』（岩波書店 二〇一九年）『徒然草』の内容と文体を先行のテクストとの関連から分析する。
- ・ 川平敏文『徒然草 無常観を超えた魅力』（中公新書 二〇一〇年）江戸時代における『徒然草』の読まれ方を論じる。
- ・ 水谷隆之『古典をもじり浮世をえがく「仁勢物語」「吉原徒然草」』（長島弘明編『奇』と『珍』の江戸文学事典 文学通信 二〇一九年）江戸時代に作られた古典のパロディについて論じる。

（佐藤至子）

本書の特徴 その2 形態的な面から

- 全文PDF公開でだれでも気軽に見られる！ → 千葉大学学術成果リポジトリ、文学通信サイトからダウンロード可能（現時点で2900超のDL数）

<https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/900123121/>

https://bungaku-report.com/shoten/koten/9784867660836_full.pdf

- 探究型の授業がすぐに実践できる！ → 誰もがその授業のファシリテーター（案内・説明役）になれるよう、各章、紙上講義風の説明をメインに、活動内容を詳しく説明している。※授業を受けているつもりで読んでも楽しめることもめざしている。90分授業2, 3回で実践できるように構成し、活動時間の目安も挙げていたので、授業 時間に応じてアレンジしやすい。毎時の授業の流れがひとめでわかるように示している。

- ワークシートやスライドもダウンロードしてすぐに使える！
→活動の遂行に重要なワークシートをそのまま使えるように設計。
- 各章（単元）の教材ともWSをもとに作成しているので、授業の意義や学んで得られるスキルが明確になっている
→授業評価にも役立てる
- 参考文献・関連書籍も紹介している



本書があれば探究型授業の準備がほぼ完結する！

本書を手にとった方々からの声

- 質が伴ったアクティブラーニングがありがたい（現場では話し合っているだけになりがちなので）（高校教員）
- 授業実践のポイントになるさまざまなヒントや知見にあふれている（高校教員）
- 授業目的が明確で組み立て方も詳述されていて、すぐに取り入れられる（高校教員）
- 古典を読む楽しみを知り、その重要性を理解する次世代を育てるのは急務。そうした課題に真正面から真摯に取り組んでいる（大学教員）
- 本書の事例は「高校でよく見る教科教育の実践報告と同様で別段珍しくない」（大学教員兼附属校校長）← 教科教育の発展としての実践ではなく、研究と教育の架橋、より社会と直結する思考力やスキルを養うことも見据えて作った探究型教材のつもり。われわれの取り組みの意図がうまく伝わっていなかったか。今後の課題。